

平成 28 年度 第 3 回 大阪府立中央聴覚支援学校 学校協議会議事録 概要

日時：平成 29 年 2 月 24 日（金） 15:15～17:00

場所：高等部 4 階会議室

1 事務局より開会にあたっての説明

2 学校長挨拶

3 各部の様子について

(幼稚部)

作品展は絵本をテーマに、家庭から材料の協力をいただきながら行った。縫い物にも挑戦した。絵画については 0～5 歳児の作品を展示した。他にも小学部との交流や、餅つき大会、避難訓練、生活発表会などを実施。自信を持ってくれることと、心と体の成長を願っている。

(小学部)

2 学期は学習発表会や、玉造小学校との交流を行った。幼稚部との交流も実施した。3 学期はマラソンタイム、歯磨き指導、社会見学を実施した。マラソン大会では前年度のタイムと比較し、子どもたちの成長がよくわかった。「体づくり優秀校」に選ばれた。

(中学部)

授業の様子。学年を超えた課題別グループでの学習。文化祭の準備の様子を紹介。上町中学との交流は 30 年以上続いている。マラソン大会や上町中での授業体験等をスライドで説明。避難訓練では、聴こえない人が災害にあった場合の対処を学習。他の取り組みの紹介として、地下鉄の見学、ボランティア清掃活動、学年集会の様子等。

(高等部)

文化祭は、夏休みから生徒たちで企画を開始した。「新たな夢に向かう第 1 歩」をテーマに展示を行った。大学体験では、食事も含めて大学生と一日一緒に過ごした。1 月には修学旅行、2 月には作品展を実施。友だちと関わる力、自己を表現する力を育てたい。進路については、大学に 7 名合格。

(寄宿舎)

たつのこ（太鼓サークル）で、T シャツを作り、大阪府教育センターのランチタイムコンサートで太鼓の舞台発表を行った。その他の取り組みとして、お楽しみ会を实

施。掲示物等で気持ちを高めている。保護者も参加した卒業生を祝う会も実施した。

4 平成 28 年度 学校経営計画 最終評価について

(人権を尊重した安全で安心な学校づくりの推進について)

- ・ 学校の取り組みが保護者にもきちんと伝わっているのか、自己評価アンケートを実施。中学部で8割を切っており、思春期の入り口であるこの時期をフォローしていく必要がある。
- ・ 保護者からは進路に関する情報について、学校はもう少し発信していく必要があるという課題をいただいている。
- ・ 教職員の手話力の向上については、個人の経験や年齢も関係する。
- ・ キャリア教育について、教員としては89%取り組んでいるつもりでも、生徒に対しては8割を切る。取り組みの示し方に工夫が必要。
- ・ 避難訓練には力を入れて実施しているが、中身については精査が必要。SPS 認証校の東京の金竜小学校や京都の養徳小学校の取り組みがあるが、支援学校に関してはまだない。聴覚障がいのある子どもたちにとっての安全のために、支援校として全国初の SPS 認証校をめざす。

(個の教育的ニーズに応じた専門的な指導の実施について)

- ・ 個に応じた指導はおおむね取り組むことができた。満足度は90%である。研究授業30回もクリアできた。しかし、高等部の保護者からは厳しい意見をいただいている。転任してきた教員の手話について、研修の場も用意しているが、なかなかうまくいってない。今後、保護者のニーズにもっとアンテナを張っていく。手話がなかなか上達しなくても、教師として、子どもたちにこれを伝えたいという気持ちを本校の教員に持ってほしい。

(障がいに対する認識を深め、社会参加・貢献に必要な知識と技能の習熟を図り、生徒の自主性、協調性、責任感、連帯感等の育成について)

- ・ キャリア教育プログラムの活用について。自分でできることを自分でさせることもキャリアの一つであり、自分が社会で生きていくための内容。重複の生徒の場合で言えば、サインを出すことや、どんな人にも順応していく力であり、キャリア教育も学力と同じように学習していくものである。
安全・安心な学校をベースに、学力、体力、そしてキャリアを高め、夢のかなう学校づくりをしたい。
- ・ 校長マネジメント予算を、重複の子どもたちの教育について、知的高への視察研修の機会のために積極的に活用した。作業学習のあり方や重複のカリキュラムを見直したいと考えている。

(聴覚障がい教育のセンター的機能の充実について)

- ・ 0歳児からの教育を充実させたい。研修にも行ってもらっている。高等学校の支援については、だいせんとすみ分けをしながらやっていきたい。

<委員からの意見・質問>

- ・ 本協議会で、保護者が早い段階から将来の夢を持てるようなキャリア教育の取り組みを望む声も意見としてあった。いろいろな情報を早い段階で提示しながら、例えば、インクルーシブの取り組みとして障がいのある教職員の配置が義務付けられたが、聴覚障がいのある方が、入学後免許を取って教員になるケースを一つのモデルケースとして、特化した形の進路選択、そのあたりも特色になるのではないかと。
- ・ 地域並みの進路指導を期待している。チャレンジテストなどの普段の成績から進路の話がしてもらえるのかと想像していたらそうでもない。親自身も情報に関してピリッとしていかなければならない。差別解消法ができ、大学は入学拒否できないが、私立大学は努力目標である。
- ・ 会社の例で、手話をサークル的に勤務時間外でやったが、レベルが上がらない。それで、勤務時間内に1年かけて続けた。覚えられる人は増えたが、覚えられない人もいる。相手の読み取りのところで壁がある。できない者はほかの方法をとるようにしている。それをサポートするのが会社の役目である。
→ 学校としては平成27年度より時間割に位置付けて講習をしている。他にも手話サロン（自主研修）も行っているが、入らない人には入らない。手話言語条例に関わって、今後、学生や福祉、一般の人も手話になれていく機会が必要。内定者研修などの機会を行政が作る等の方法を働きかけたい。
- ・ キャリアの部分の課題について、知的、肢体の情報を生かして取り組みを進めてほしい。
→ 教育課程が大事だと考えている。自立活動を中心とした教育課程の観点、項目をしっかりと見直して、授業のポイントを保護者に説明できるようにする。また、転任者に対して、なぜこの授業をしているのか、理由として去年もやっているからではなく、目標をきちんと説明できるようにする。
- ・ 病院でも早期からかかわっているが、インターネット等を見て相談に行かれる方も増えている。敷居が高いというのもまだある。幼稚部からの進路相談について、病院では普段の生活が見られない。母親から聞き取ったことをもとに相談するので、内容は限られるが、それでも相談を受けることが多い。見学に行くまでの敷居が高

い点、地域ともつながってほしいという保護者の気持ちもあり、悩むところである。全部はかなえられないが、学校とも相談しながら毎年取り組んでいる。

- ・ 地域にこの学校のことを分かってもらうために、連合町会にもPRをすればよいのではないか。地域の文化祭も実施しているので、出し物など一緒にできたらと考えている。地域の学校の作品なども展示しているので、参加する機会を考えてもらえたらいい。地域との交流の機会をもっと持ってもよいのではないか。地域の子どもも本校の文化祭を見に来た入り、窓口を開いてもらえたら、地域としてもありがたい。費用の点でも協力できる。

5 事務局より事務連絡

- ・ 今後の日程について、3月3日（金）高等部卒業式、3月13日（月）幼小中卒業式
4月10日入学式
次年度の第1回学校協議会は5月18日（木）を予定している。
学校キャッチフレーズ投票用紙について、評議員の皆様にも投票をおねがいしたい。

7 閉会